

## 4-13 流域ネットワーク推進事業 ラブリバー撥川ネットワーク

建設局 水環境課

## 実施内容

## 概要

撥川流域では、自治区会や小中学校、企業など市民参画による地域部会などによって、撥川再生計画を策定し、撥川の整備に生かしている。

そうした地域の人々の想いを受けて、現在撥川は植物が芽生え、魚がすむなど川が蘇りつつある。そこでふるさとの川として蘇ったこの撥川を、今後は市民の力で守ろうと、河川愛護団体「ラブリバー撥川ネットワーク」が設立された。主な活動は、自然環境の象徴とも言われているホタルをこの撥川に蘇らせ、その活動を通じて子どもたちに自然環境や生命の大切さを伝えていくことである。また副都心黒崎のイメージアップにも寄与していくことも目的としている。

## 組織

- ・ 地元自治区会・老人会・婦人会
- ・ 地域の小中学校
- ・ 河川愛護団体、ホタル育成団体、NPO法人、民間企業 等

## 成果

- ・ 総会開催（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
- ・ ホタル飛翔調査
- ・ 撥川ほたる祭り（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
- ・ ホタル放流会
- ・ 河川清掃



昔の撥川



現在の撥川

## 今後の展開

今後も撥川ホタル祭りや河川清掃など河川愛護活動のより一層の充実を図っていく。

## 4-14 地域固有の生態系の保全と利用 曾根干潟環境保全の取り組み

環境局 環境監視課

## 目的・趣旨

「第2次北九州市生物多様性戦略」の基本目標「自然環境の適切な保全による、森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮」を具体化していく施策として、この事業では、希少な動植物が多数生息する場所として重要である曾根干潟（小倉南区）について、定期的なモニタリング調査や情報収集により干潟の環境保全を図っていく。

## 内容

- ・ 令和元年度 底生動物（定量）および底質（成分、粒度組成）調査、鳥類調査
- ・ 令和2年度 底生動物（定量）および底質（成分、粒度組成）調査、鳥類調査、地盤高調査
- ・ 令和3年度 底生動物（定量）および底質（成分、粒度組成）調査、鳥類調査

## 成果

- ・ 平成18年7月には、環境省がすすめている全国1000ヶ所の長期生態観測地点「モニタリングサイト1000」に、シギ・チドリ類を指標として曾根干潟が選定された。

## 今後の展開

- ・ 関係団体と連携し、情報収集に努める。また、地元・関係者と行政との協議の場を設け、意見の聴取を図る。
- ・ 市においても定期的なモニタリング調査を実施し、干潟環境の把握に努め、必要に応じて保全策を講じる。



曾根干潟に飛来したズグロカモメ



ヘラサギ(右)とクロツラヘラサギ(左)

4-15 天然記念物平尾台土地買い上げ事業

市民文化スポーツ局 文化企画課

実施内容

**概要** 国指定天然記念物平尾台保護のため、文化財保護法及び平尾台保存管理計画に基づき、指定地域の一部を順次購入する。

**成果** 約46,411㎡を購入。

**課題** 現在の公有化率は52.4%となっており、今後の公有化事業の継続のため、国・県・市の事業予算の確保が必要である。



今後の展開

今後も買い上げ事業を継続していく。



4-16 希少種の保全(ガシャモク保護対策)

環境局 環境監視課  
小倉南区役所 総務企画課

実施内容

**概要** ガシャモクは環境省RL絶滅危惧IA類に指定され、西日本では本市のみに自生が確認されている希少な水生植物である。北九州市では、地元の植物専門家や福岡県と協働して、ガシャモクが自生しているため池の水質・底質や生育状況などについてモニタリング調査を継続するとともに、系統保存に関する調査を実施している。また、定期的に会議を開催し、調査状況の確認や保全策の検討を行っている。

**成果**

- ・ガシャモク会議を書面にて開催し、情報を共有。
- ・地元の市丸小学校の児童によるガシャモク保全活動として、校内でガシャモクの栽培や、生育条件に関する実験に取り組んでおり、ガシャモク保全活動の輪が地元を中心として広がってきた。

今後の展開

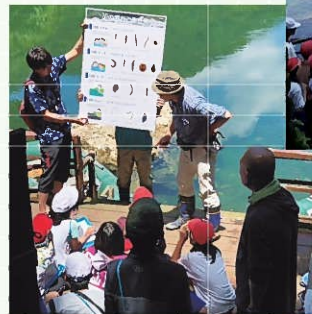
モニタリング調査の結果を考慮しながら、適切な保全策を講じる。また、今後も地元を情報発信元の中核として、ガシャモク保全に向けた取り組みをアピールする。



がしゃもく会議



市丸小学校による水質調査の様子



ガシャモク

4-17 外来種対策への取り組みについて

環境局 環境監視課

実施内容

概要

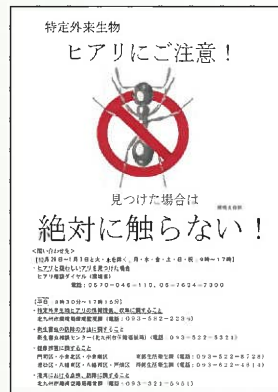
外来生物による生態系への影響等を防止するため、平成17年6月に外来生物法が施行された。本市では平成17年度から外来生物問題に関して市民への周知徹底を図るため、市民フォーラムを開催するなど、この問題に対し啓発を図ってきた。

内容

- ・響灘ビオトープにおける外来種ジャンボタニシ（正式名称：スクミリンゴガイ）駆除。
- ・オオキンケイギクの拡散防止、ヒアリ・アカカミアリの防除の状況について、市HPで広報。
- ・ヒアリ・アカカミアリの防除・調査を実施。
- ・新たに指定された特定外来生物に関するお知らせをていんプレスに掲載。

今後の展開

特定外来生物の拡散などを防ぐため、市HPやていんプレスなどを通じ、特定外来生物を中心とした外来種の周知啓発に継続して取り組む。



ジャンボタニシ

戦略基本目標 4 人と自然の関係を見直し、自然から多くの恵みを感じることができる状態の維持

4-18 響灘・鳥がさえずる緑の回廊創成事業(植樹による緑の回廊づくり)

環境局 環境監視課

実施内容

活動名称 鳥がさえずる緑の回廊植樹会

目的・趣旨

多くの市民の参加を得て緑豊かな郷土をつくっていく取り組みの一つとして、「響灘埋立地に木を植えよう」を合い言葉に、市民、NPO等からなる実行委員会主催による植樹会を開催する。

内容

2千ヘクタールにも及ぶ広大な響灘地区の幹線道路沿道を対象に15年程度かけ30万本のどんぐりの苗木を植栽する取り組みで、平成17年度にスタートした。市民、NPO、団体、企業、行政が協働してシイ、カシ、クヌギなどの「どんぐり苗の植栽(緑の回廊づくり)」を行う。

成果

- ・活動がスタートした平成17年度以降、参加企業数の増加など植樹会の定着もみられ、活動の裾野が広がってきている。
- ・令和3年3月、新型コロナウイルス感染症対策のため、規模を縮小して実施。
- ・市民自らが木を植えることにより自然の大切さを学び、美しい景観を自ら作り、地球規模の環境問題に関心を持つきっかけとなった。

今後の展開

- ・今後も、響灘地区での更なる回廊づくりを図るため、市民やNPO、団体、企業、行政が協働で取組を進めていく。



- ・将来、広大な埋立地が緑豊かとなり、そこに鳥や虫など多様な生物の生息空間が形成されることで、産業と自然が調和した市民のやすらぎの場、楽しみの場ともなり、世界の環境首都を目指す本市の環境対策の拠点となる。

4-19 響灘・鳥がさえずる緑の回廊創成事業(響どんぐり銀行)

環境局 環境監視課

実施内容

活動名称 響どんぐり銀行

目的・趣旨

「緑の回廊づくり」を進めるため、市民・NPO、企業、行政が協力して、どんぐり拾いから始め苗木を育てる仕組み「響どんぐり銀行」を組織して、苗木の提供を行う。

内容

若松区内小学校9校にて、どんぐり拾い及び育苗を実施。育苗は、10社の企業、2団体のNPOなどでも行われた。

【響どんぐり銀行 育苗参加企業・団体】

育苗は2019年で終了。苗は2021年及び2022年3月植樹予定。

- |                          |                       |
|--------------------------|-----------------------|
| ・イオン若松ショッピングセンター         | ・大日本印刷(株)             |
| ・NPO法人北九州ビオトープ・ネットワーク研究会 | ・(株)ニシコン              |
| ・九州電力株式会社 北九州支社          | ・西日本家電リサイクル(株)        |
| ・グリーンパーク活性化共同事業体         | ・日本通運(株)北九州支店エコタウン事業所 |
| ・玄海青年の家                  | ・(株)安川電機              |
| 〔玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体〕    | ・八幡東ボランティアグループ        |
| ・JM活性コース(株)              | (50音順)                |

成果

昨年に引き続き、地元小学校や企業、市民団体が参加し、どんぐり苗の作成を行った。



4-20 響灘・鳥がさえずる緑の回廊創成事業(緑の拠点づくり)

環境局 環境監視課

実施内容

活動名称 響灘ビオトープ

目的・趣旨

回廊構想全体の中核的な事業として、廃棄物処分場跡地に、自然創成の考えによる拠点となる緑地(ビオトープ)整備し、運営を行っている。エコタウン、次世代エネルギーパークと合わせた響灘エコフロンティアパークの環境学習資源として、市民と自然のふれあいを推進する。

内容

産業廃棄物処分場跡地に自然創成の考えによる日本最大級のビオトープの運営を行った。  
令和2年度は、約12,000人が訪れた。

成果

新型コロナウイルス感染症対策を実施しながらの運営であったが、市民や学校関係者などに「響灘ビオトープ」の魅力や楽しさを知ってもらうことができた。

今後の展開

・今後もチュウヒやベッコウトンボなどの希少種をはじめとした様々な生き物が生息する環境を守り、子どもたちにこのすばらしい自然環境を受け継いでいく。

